

聖書

ローマ8章26～30節

8:26 御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてください。

8:27 人間の心を探り窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。なぜなら、御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです。

8:28 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

8:29 なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです。

8:30 神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。

8月29日
とりなしの祈り
ローマ8章26～30節

礼拝で創世記からアブラハムの信仰の歩みを学んでいます。前回はアブラハムがロトの家族の救いのために、真剣にとりなしの祈りをしていた場面を学びました。今回も同じ「とりなしの祈り」というテーマで説教をいたします。

とりなしの祈りという言葉、祈りについて

聖書の他の箇所から今日は学んでいきたいと思えます。とりなしという言葉をよく使いますがキリスト教の専門用語です。キリスト教信仰を日本語で表現、理解しなければなりません。本来の日本語の意味をキリスト教的に解釈していくことも必要です。

ヨハネ第一の手紙2章1～2節にとりなしの祈り
が出てきます。

2:1 私の子どもたち。私がこれらのことを書き送
るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるた
めです。もしだれかが罪を犯すことがあれば、私
たちには、御父の前で弁護する方がいます。義
なるイエス・キリストです。

2:2 この方こそ、私たちの罪のための——私た
ちの罪だけでなく、世全体のための——なだめ
の供え物です。

新改訳第三版では
私たちには、御父の前で弁護する方がいます。
義なるイエス・キリストです。

新改訳2017では
私たちには、御父の前でとりなしてくださる方、
義なるイエス・キリストがおられます。

義なるイエス・キリストが
弁護して下さるが
とりなしてくださる
と言い換えられています。

①弁護、とりなしとは何か。

②誰が弁護、とりなしをして
くださるのか

③どのようにして弁護、とりなしをして
くださるのか

もしだれかが罪を犯すことがあれば、
私たちには、御父の前で
弁護する方がいます。

私たちが罪を犯したとき、
私たちは御父、義なる神の前で、
神の法廷の裁きの座に
つかなければなりません。

これはすべての人は一度死ぬことと
死んだあと裁きを受けることが定まっているヘブ
ル9章27節

今の裁判で、監視カメラ、ドライブレコーダーなどにいろんなことが写っていて、証拠となる。

私たちのすべての行いは神様のカメラにレコーダーに記録されている。行いに上がる前、心で企てたことも心を写すレントゲンのようにあらわに神様の命の書に記され、人は、この証拠によって裁かれなければなりません。

すべての人は罪を犯したので
神の栄誉を受けることができません。

この神の法廷で義なるキリストが弁護してください。

キリストは人間の法廷で弁護士が弁護してくださいのように弁護してください。

それ以上に宥めのささげものとなって、
私たちが支払わなければならない、
罰金、償いの賠償金を身代わりに支払ってください。

弁護以上のとりなしをしてください。

この私たち罪人の償いの支払いを身代わりにできるのは

罪のない義なるキリストだけです。

汚れた手をきれいにするのは
きれいな水です。

汚れた服をきれいに洗うのも
汚い水ではなくきれいな水。

罪で汚れた私たちをきれいに
きよめることは、

罪ある人間ではできません。

罪なきキリストのみ、
私たちの罪をきよめ、
神の前に私たちを無罪と宣告することが
できます。

2:2 この方こそ、私たちの罪のための——私たちの罪だけでなく、世全体のための——なだめの供え物です。

ここも新改訳2017では

2:2 この方こそ、私たちの罪のための、いや、私たちの罪だけでなく、世全体の罪のための宥めのささげ物です。

罪には神の怒りが下ります。
神の怒りは正義が破壊された時
発露します。

罪を怒らない神は義なる神ではありません。義
なる神は罪を犯した人間を裁かなければなりま
せん。

罪なきキリストが十字架で血潮を流してくださったことにより、罪に対する神の怒りが宥められ、キリストを信じる者は、キリストと一体化されることにより、罪の贖いを受けて、神の怒りからまぬかれ、救いの恵みに与ります。

キリストは贖いのみわざというとりなしをなされた
だけでなく

私たちに救いが及ぶようにとりなしの祈りをしてい
てくださいます。

ヘブル7章24節

しかし、キリストは永遠に存在されるのであって、変わることのない祭司の務めを持っておられます。

7:25 したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことができになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。

イエス様は贖いの代価として命を与えてくださったあと、
永遠の大祭司として、
この救いのみわざを人々が受けるようにとりなし
の祈りをしています。

22:31 シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。

22:32 しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

私たちも小さな祭司としてイエス様の御名によってとりなしの祈りに励みたいと思います。

でもいつもいつも友のために祈れるとは限りませ
ん。

アブラハムは何度も何度も裏切られたり
嫌な思いをした口のために祈っています。

私たちの心のわたかまりが
せっかくイエス様がくださったイエス様の御名、御
名によって祈る特権を
使えなくなる時があります。

ローマ8章26節

8:26 御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてください。

私たちは弱い存在。

とても敵のために祈ることは出来ません。

**友のためにも何かいざこざがあると祈れなくなっ
てしまいます。**

出エジプト記 32:31 そこでモーセは【主】のところに戻って、申し上げた。「ああ、この民は大きな罪を犯してしまいました。自分たちのために金の神を造ったのです。

32:32 今、もし、彼らの罪をお赦しくだされるものなら——。しかし、もしも、かないませんなら、どうか、あなたがお書きになったあなたの書物から、私の名を消し去ってください。」

私たちは弱いものであるので、些細なことで敵対して、とりなしの祈りが出来なくなってしまう。

パウロも同族から激しい非難、攻撃、中傷を受け、いのちを狙われ、彼らのために祈ることの困難を覚えていました。

そこを助けてくださるのが聖霊の御業です。

8:27 人間の心を探り窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。なぜなら、御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです。

祈れないときにも祈れるように、礼拝に行きたくないときにも聖霊がとりなして、働いていて下さいます。この聖霊の促しによって

8:28 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。

すべてを益としてくださる主に委ねることができます。

聖霊のとりなしによって 私たちはとりなしの祈りに目覚め

8:30 神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、
召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々
にはさらに栄光をお与えになりました。
人を教会に集会に召してくださる、導いて、招い
てくださって、信仰を告白されて救われ、義とさ
れ、さらに聖なる人に育っていきます。

主の素晴らしいみわざを信じて、御霊に導かれ、兄弟を赦し、口トのような不義理を犯している親戚、きょうだいも赦して、とりなしの祈りに励んで行きたいと思います。

祈り